様式第２号の１－①【⑴実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第２号の１－②を用いること。

学校名	仁愛大学
設置者名	学校法人　福井仁愛学園

１．「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
人間学部	心理学科	夜・通信		10	20	30	13	
	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科	夜・通信		8	22	30	13	
人間生活学部	健康栄養学科	夜・通信		4	26	30	13	
	子ども教育学科	夜・通信		6	24	30	13	
（備考）								

２．「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.jindai.ac.jp/about/disclosure.html

３．要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
（困難である理由）

様式第２号の２－①【⑵-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第２号の２－②を用いること。

学校名	仁愛大学
設置者名	学校法人福井仁愛学園

１．理事（役員）名簿の公表方法

福井仁愛学園ホームページ上にて公表 http://www.jin-ai.jp/report/

２．学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	会社役員	2025.6.24 ～ 4 年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結時まで	組織運営体制へのチェック機能
非常勤	会社役員	2025.6.24 ～ 4 年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結時まで	組織運営体制へのチェック機能
非常勤	会社役員	2025.6.24 ～ 4 年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結時まで	組織運営体制へのチェック機能
（備考）			

様式第２号の３【⑶厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	仁愛大学
設置者名	学校法人　福井仁愛学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

１．授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。

（授業計画書の作成・公表に係る取組の概要）

・授業計画（シラバス）の作成課程
教育課程委員会にて「シラバス(授業計画)執筆ガイドライン」を定め、学部ごとに統一されたシラバスを作成している。シラバスへの記載は、授業の方法(講義、演習、実習等)、授業の内容、授業計画、授業の到達目標、成績の評価方法・基準欄の他、教育目標、アクティブラーニングの実施、事前・事後学修等も含まれている。また、本委員会によるシラバスチェックを実施し、適正性に努めている。なお、シラバスは、大学ホームページ“教育情報の公表”を通じて学内外に公表している。

・授業計画の作成・公表時期
毎年 12 月中旬までに次年度の授業担当者が決定することから、シラバスの作成は 12 月下旬から 1 月中旬頃までとなっている。公表時期については、教育課程委員会による“シラバスチェック(2 月～3 月中旬)”を経て 4 月より本学ＨＰの“教育情報の公表”を通じて全て公表している。

授業計画書の公表方法	https://www.jindai.ac.jp/about/syllabus.html

２．学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

（授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要）

・各授業科目のシラバスに示されている“授業の到達目標”に対する学生の到達度を見るため、講義、演習、実験、実習、実技等の授業形態に応じた評価方法（①定期試験：筆記、実技、論文、レポート等。②平常成績：小テスト、課題、授業への参加態度等）を実施している。なお、成績の評価は以下の基準により表される。

成績評価	素点基準	単位認定
S	100～90点	合格
A	89～80点	
B	79～70点	
C	69～60点	
E	59～0点	不合格
F	（出席数不足）	

３．成績評価において、ＧＰＡ等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

（客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要）

・科目毎の成績評価(S･A･B･C･E･F)に対して、不合格科目も含めて４点～0点のグレードポイント(GP)を付与し、その平均値を算出するGPA(Grade Point Average)制度を導入している。なおＧＰＡ値の算出方法等については以下のとおりである。

成績評価	GP
S	4
A	3
B	2
C	1
E	0
F	0

(1)GPAの計算は、以下の計算式により算出する。(小数点第２位以下切捨て)

$$\text{GPA値} = \frac{[(\text{科目の単位数})\times(\text{その科目で得たGP})]\text{の総和}}{\text{履修登録した単位数の総和}}$$

(2)入学前の既修得単位や単位互換による科目などの認定科目については、GPAの計算の対象としない。

(3)GPAの算出日は各学期末とし、各学期の学期GPA及び入学後の通算GPAを算出する。

客観的な指標の算出方法の公表方法	https://www.jindai.ac.jp/about/disclosure.html

４．卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要）
学則に基づいて所定の単位を修得し、“学位授与の方針(ディプロマポリシー)”にて定められた能力を身につけた学生に卒業を認め学位を授与している。なお、卒業判定は各学部の教務委員会にて卒業要件の確認(各種資格要件の確認を含む)を行い、各学部の教授会を経て、学長が卒業及び学位授与を決定している。

１．人間学部
（１）心理学科ディプロマポリシー
豊かな人間性と倫理観を身につけ、幅広い視野から物事をとらえ、人間および人間関係における具体的な問題の解決と相互理解のための意思伝達の在り方を有機的に学び、人間の心理や行動特性に関して多角的な教育研究を行って広範にわたる心理学の専門知識と相談・援助の技術を備えた有為な人材を育成することを目的としています。そのため、心理学科では、学則にもとづいて所定の単位を修得し、次に掲げる能力を身につけた学生に「学士（心理学)」の学位を授与します。

知識・理解・技能
･心理学の研究方法と基礎的な知識・技能・技術を身につけている。
･教育・医療・福祉現場等における他者理解に基づく相談・援助のしかたを修得している。
･医療・福祉分野等で心理的および行動的側面から生活支援を行える力が備わっている。
･産業・社会集団で活かせる専門的・実践的な知識とスキルを獲得している。

思考力・判断力・表現力
･人の心や行動特性を科学的に分析し、論理的に表現・記述することができる。
･人間関係に基づく諸問題に対して、客観的な思考力をもって理論的に判断することができる。

関心・意欲・態度
･人間関係において生じる問題を意欲的に解決することによって、社会に貢献することができる。
･人間の心理・行動に高い関心を示し、主体性をもって多様な人々と協働して物事に対処する態度を有している。

（２）コミュニケーション学科ディプロマポリシー
豊かな人間性と倫理観を身につけ、幅広い視野から物事をとらえ、人間および人間関係における具体的な問題の解決と相互理解のための意思伝達の在り方を有機的に学び、国際化・情報化社会において、豊かな表現力を有し文化の相互交流に資することができ、柔軟な発想と実践的な企画力により、地域社会や産業界のリーダーとなる人材を育成することを目的としています。そのため、コミュニケーション学科では、学則にもとづいて所定の単位を修得し、次に掲げる能力を身につけた学生に「学士（コミュニケーション学)」の学位を授与します。

知識・理解・技能
･コミュニケーションに関する知識を修得している。
･異文化を理解し、国際社会や地域社会を広い視野からとらえる技能を身につけている。
･言語スキルやその他のコミュニケーション・ツールの活用スキルを修得している。

思考力・判断力・表現力
・国際化・情報化社会において、文化の相互交流に資する豊かな表現力を有している。
・課題解決のための構想力と判断力を持っている。

関心・意欲・態度
・地域の文化創造・発展に向けて課題解決に主体的に取り組むことができる。
・地域社会や産業界のリーダーとなる意欲を持っている。

２．人間生活学部
（１）健康栄養学科ディプロマポリシー
豊かな人間性と倫理観を身につけ、幅広い視野から物事をとらえ、現代の人間生活の諸課題の解決や支援に当たりうる幅広い教養と確かな知識・技能を学び、健康と栄養に関する高度な知識と技術を有し、医療、地域、保健、福祉、教育、産業のあらゆる分野において人々の健康の保持・増進に貢献することのできる管理栄養士の養成を目的としています。そのため、健康栄養学科では、学則にもとづいて所定の単位を修得し、次に掲げる能力を身につけた学生に「学士（栄養学）」の学位を授与します。

知識・理解・技能
・チーム医療の一員として、傷病者に対する適切な栄養管理を行える力を身につけている。
・地域、保健、福祉、産業の場の人々の栄養状態を把握し、個別栄養評価プログラムを提案し、行動変容を支援できる力を身につけている。
・学校における「栄養・食教育」および地域社会の特色を活かした健康づくりを担うことができる力を身につけている。
・栄養学・食品学の専門知識を活かした基礎研究および商品開発ができる力を身につけている。

思考力・判断力・表現力
・管理栄養士に求められるコミュニケーション能力を身につけている。
・管理栄養士に求められる論理的思考力、判断力ならびに表現力を身につけている。

関心・意欲・態度
・あらゆる分野において人々の健康に関わる課題を見出し、その解決・改善に向けて主体的に取り組む意欲と態度を身につけている。
・人々の健康の保持・増進に高い関心を示し、他者と協働して社会に貢献する意欲と態度を身につけている。

（２）子ども教育学科ディプロマポリシー
豊かな人間性と倫理観を身につけ、幅広い視野から物事をとらえ、現代の人間生活の諸課題の解決や支援に当たりうる幅広い教養と確かな知識・技能を学び、子どもの教育と保育に関する教授研究を通して、支援の技術を備え、子どもの健全な育成と福祉の向上に貢献できる有為な人材を育成することを目的としています。そのため、子ども教育学科では、学則にもとづいて所定の単位を修得し、次に掲げる能力を身につけた学生に「学士（教育学）」の学位を授与します。

<table>
<tr><td colspan="2">知識・理解・技能
・教育・保育の本質及び目的に関する知識を身につけている。
・教育・保育の内容及び指導の方法を身につけている。
・教育・保育の表現技術を身につけている。
・教育・保育の対象について理解している。

思考力・判断力・表現力
・教育者・保育者に求められる論理的思考力、主体的判断力、総合的表現力を備えている。
・教育・保育の実践を振り返り、改善に向けて誠実に取り組む態度を身につけている。
・保護者及び地域の子育て支援の意義を理解し、的確な判断力と支援方法を身につけている。

関心・意欲・態度
・教育者・保育者として課題を見いだし、その解決に向けて主体的に取り組む意欲及び他者と協働して解決に取り組む態度を身につけている。
・豊かな人間性と相互敬愛の精神をもって、子どもの健全な育成と福祉の向上に寄与できる。</td></tr>
<tr><td>卒業の認定に関する方針の公表方法</td><td>人間学部
心理学科
https://www.jindai.ac.jp/department/human/psychology/policy.html
コミュニケーション学科
https://www.jindai.ac.jp/department/human/communication/policy.html

人間生活学部
健康栄養学科
https://www.jindai.ac.jp/department/human-life/dietetics/policy.html
子ども教育学科
https://www.jindai.ac.jp/department/human-life/education/policy.html</td></tr>
</table>

様式第２号の４－①【⑷財務・経営情報の公表（大学・短期大学・高等専門学校）】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第２号の４－②を用いること。

学校名	仁愛大学
設置者名	学校法人福井仁愛学園

１．財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	http://jin-ai.jp/report/
収支計算書又は損益計算書	http://jin-ai.jp/report/
財産目録	http://jin-ai.jp/report/
事業報告書	http://jin-ai.jp/report/
監事による監査報告（書）	http://jin-ai.jp/report/

２．事業計画（任意記載事項）

単年度計画（名称：	対象年度：　　）
公表方法：	
中長期計画（名称：	対象年度：　　）
公表方法：	

３．教育活動に係る情報

（１）自己点検・評価の結果

公表方法：https://www.jindai.ac.jp/about/disclosure.html

（２）認証評価の結果（任意記載事項）

公表方法：

（３）学校教育法施行規則第 172 条の２第１項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名　人間学部（心理学科・コミュニケーション学科） 人間生活学部（健康栄養学科・子ども教育学科）
教育研究上の目的（公表方法：　https://www.jindai.ac.jp/about/goal.html）
（概要） １．人間学部 人間学部は、人間及び人間関係に関し、多角的に教授研究を行い、幅広い教養と専門知識を有する有為な人材を育成することを目的とする。 （１）心理学科 心理学科は、人間の心理や行動特性に関する教授研究を通して、心理学の専門知識と相談・援助の技術を有する人材を養成することを目的とする。 （２）コミュニケーション学科 　コミュニケーション学科は、人間の相互理解と意思伝達に関する教授研究を通して、コミュニケーション学の専門知識とコミュニケーションの技術を有する人材を養成することを目的とする。 ２．人間生活学部 人間生活学部は、現代の人間生活の諸課題に関し、多角的に教授研究を行い、幅広い教養と専門知識を有する有為な人材を育成することを目的とする。 （３）健康栄養学科 健康栄養学科は、人間の食生活に関する教授研究を通して、栄養学の専門知識と健康管理の技術を有する人材を養成することを目的とする。 （４）子ども教育学科 子ども教育学科は、子どもの教育と保育に関する教授研究を通して、教育学の専門知識と子育て支援の技術を有する人材を養成することを目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法： 心理学科 https://www.jindai.ac.jp/department/human/psychology/policy.html コミュニケーション学科 https://www.jindai.ac.jp/department/human/communication/policy.html 健康栄養学科 https://www.jindai.ac.jp/department/human-life/dietetics/policy.html 子ども教育学科 https://www.jindai.ac.jp/department/human-life/education/policy.html
（概要） （１）心理学科 豊かな人間性と倫理観を身につけ、幅広い視野から物事をとらえ、人間および人間関係における具体的な問題の解決と相互理解のための意思伝達の在り方を有機的に学び、人間の心理や行動特性に関して多角的な教育研究を行って広範にわたる心理学の専門知識と相談・援助の技術を備えた有為な人材を育成することを目的としています。そのため、心理学科では、学則にもとづいて所定の単位を修得し、次に掲げる能力を身につけた学生に「学士（心理学）」の学位を授与します。 知識・理解・技能 ･心理学の研究方法と基礎的な知識・技能・技術を身につけている。

·教育・医療・福祉現場等における他者理解に基づく相談・援助のしかたを修得している。
·医療・福祉分野等で心理的および行動的側面から生活支援を行える力が備わっている。
·産業・社会集団で活かせる専門的・実践的な知識とスキルを獲得している。

思考力・判断力・表現力
·人の心や行動特性を科学的に分析し、論理的に表現・記述することができる。
·人間関係に基づく諸問題に対して、客観的な思考力をもって理論的に判断することができる。

関心・意欲・態度
·人間関係において生じる問題を意欲的に解決することによって、社会に貢献することができる。
·人間の心理・行動に高い関心を示し、主体性をもって多様な人々と協働して物事に対処する態度を有している。

（2）コミュニケーション学科
豊かな人間性と倫理観を身につけ、幅広い視野から物事をとらえ、人間および人間関係における具体的な問題の解決と相互理解のための意思伝達の在り方を有機的に学び、国際化・情報化社会において、豊かな表現力を有し文化の相互交流に資することができ、柔軟な発想と実践的な企画力により、地域社会や産業界のリーダーとなる人材を育成することを目的としています。そのため、コミュニケーション学科では、学則にもとづいて所定の単位を修得し、次に掲げる能力を身につけた学生に「学士（コミュニケーション学）」の学位を授与します。

知識・理解・技能
·コミュニケーションに関する知識を修得している。
·異文化を理解し、国際社会や地域社会を広い視野からとらえる技能を身につけている。
·言語スキルやその他のコミュニケーション・ツールの活用スキルを修得している。

思考力・判断力・表現力
·国際化・情報化社会において、文化の相互交流に資する豊かな表現力を有している。
·課題解決のための構想力と判断力を持っている。

関心・意欲・態度
·地域の文化創造・発展に向けて課題解決に主体的に取り組むことができる。
·地域社会や産業界のリーダーとなる意欲を持っている。

（3）健康栄養学科
豊かな人間性と倫理観を身につけ、幅広い視野から物事をとらえ、現代の人間生活の諸課題の解決や支援に当たりうる幅広い教養と確かな知識・技能を学び、健康と栄養に関する高度な知識と技術を有し、医療、地域、保健、福祉、教育、産業のあらゆる分野において人々の健康の保持・増進に貢献することのできる管理栄養士の養成を目的としています。そのため、健康栄養学科では、学則にもとづいて所定の単位を修得し、次に掲げる能力を身につけた学生に「学士（栄養学）」の学位を授与します。

知識・理解・技能

・チーム医療の一員として、傷病者に対する適切な栄養管理を行える力を身につけている。
・地域、保健、福祉、産業の場の人々の栄養状態を把握し、個別栄養評価プログラムを提案し、行動変容を支援できる力を身につけている。
・学校における「栄養・食教育」および地域社会の特色を活かした健康づくりを担うことができる力を身につけている。
・栄養学・食品学の専門知識を活かした基礎研究および商品開発ができる力を身につけている。

思考力・判断力・表現力
・管理栄養士に求められるコミュニケーション能力を身につけている。
・管理栄養士に求められる論理的思考力、判断力ならびに表現力を身につけている。

関心・意欲・態度
・あらゆる分野において人々の健康に関わる課題を見出し、その解決・改善に向けて主体的に取り組む意欲と態度を身につけている。
・人々の健康の保持・増進に高い関心を示し、他者と協働して社会に貢献する意欲と態度を身につけている。

（4）子ども教育学科
豊かな人間性と倫理観を身につけ、幅広い視野から物事をとらえ、現代の人間生活の諸課題の解決や支援に当たりうる幅広い教養と確かな知識・技能を学び、子どもの教育と保育に関する教授研究を通して、支援の技術を備え、子どもの健全な育成と福祉の向上に貢献できる有為な人材を育成することを目的としています。そのため、子ども教育学科では、学則にもとづいて所定の単位を修得し、次に掲げる能力を身につけた学生に「学士（教育学）」の学位を授与します。

知識・理解・技能
・教育・保育の本質及び目的に関する知識を身につけている。
・教育・保育の内容及び指導の方法を身につけている。
・教育・保育の表現技術を身につけている。
・教育・保育の対象について理解している。

思考力・判断力・表現力
・教育者・保育者に求められる論理的思考力、主体的判断力、総合的表現力を備えている。
・教育・保育の実践を振り返り、改善に向けて誠実に取り組む態度を身につけている。
・保護者及び地域の子育て支援の意義を理解し、的確な判断力と支援方法を身につけている。

関心・意欲・態度
・教育者・保育者として課題を見いだし、その解決に向けて主体的に取り組む意欲及び他者と協働して解決に取り組む態度を身につけている。
・豊かな人間性と相互敬愛の精神をもって、子どもの健全な育成と福祉の向上に寄与できる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：
心理学科
https://www.jindai.ac.jp/department/human/psychology/policy.html
コミュニケーション学科
https://www.jindai.ac.jp/department/human/communication/policy.html
健康栄養学科
https://www.jindai.ac.jp/department/human-life/dietetics/policy.html
子ども教育学科
https://www.jindai.ac.jp/department/human-life/education/policy.html

（概要）
１．心理学科
豊かな人間性と倫理観を身につけて人間および人間関係における幅広い教養を修得するための「学部共通科目」と、人間の心理や行動特性に関する広範にわたる心理学の専門知識を有する相談・援助の技術を備えた有為な人材を育成するための「専門科目」を置いています。
「専門科目」においては、1 年次から 3 年次にかけて展開される「基幹科目」と 3 年次から配当される「応用科目」を設定しています。「基幹科目」には、科目群として「心理学基礎」と「心理学専門」があり、必修科目が多く配されていて偏りなく履修します。「応用科目」は、選択的に履修する「臨床系」「行動・支援系」「産業・社会系」の 3 系の科目群と、必修科目の「特別演習・卒業研究」から成っています。

教育内容
（1）学部共通科目
①全学共通科目、人間学関連科目
◦豊かな人間性と倫理観を身につけ、幅広い視野から物事をとらえ、的確な判断を下すことができる力を養います。
②環境・健康科目、外国語科目、情報科目、修学基礎・キャリア形成科目
◦大学生としての基礎的能力ならびに専門的・実際的な知識を修得し、探究的な意欲と協働的な態度を身につけます。

（2）専門科目
①基幹科目
「心理学基礎」
◦心理学の研究方法と基礎的な知識・技能・技術を身につけます。
「心理学専門」
◦応用科目の土台となる科目で、教育・医療・福祉現場における相談・援助・支援や、産業・社会集団で活かせる専門知識とスキルを修得するための基本を学びます。
②応用科目
「臨床系」
◦教育・医療・福祉現場での心理臨床の理論と実践のしかたを習得します。
「行動・支援系」
◦人の心や行動を科学的に分析し、様々な状況の下で支援する方法を習得します。
「産業・社会系」
◦組織や集団に関わる行動の原理を理解し、実社会における人間関係の心理について習得します。

「特別演習・卒業研究」
◦人間の心理・行動に対して、高い専門性と主体性、客観的な思考力をもって理論的解明を行い、物事に対処する能力と態度を育成します。

教育方法
･授業・予習と復習・課題の内容と時期を段階的に配置し、計画的な学修がしやすい環境をつくって効果的な教育を行います。
･身につけたい能力の獲得と心理学関連の検定受験を支援し、学生自身の目標設定と教育評価に利用し、教育方法をより有効に改善していきます。
･主体的な学びの力を高めるために、アクティブラーニングを取り入れます。課題に対する評価や問題点のフィードバックを適宜行い、学生間でのディスカッションを推奨し、疑問点を提起および解決できる場を設定して、積極的に取り組む態度を高めます。

２．コミュニケーション学科
豊かな人間性と倫理観、幅広い視野から物事をとらえる能力の育成のための 2 領域 6 科目群からなる「学部共通科目」と、「専門科目」として、国際化・情報化社会において、豊かな表現力を有し文化の相互交流に資する能力を育成する「基幹科目」、柔軟な発想と実践的な企画力により地域社会や産業界のリーダーとなる人材を育成するための 3 コースからなる「応用科目」によってカリキュラムを構成しています。
「専門科目」において、「基幹科目」は、「コミュニケーション学基礎理論」と「コミュニケーション学基礎スキル」からなる「コミュニケーション学基礎」と、「コミュニケーション学専門」の 2 系統 3 科目群によって構成され、「応用科目」は企画・マネジメント力の育成を目指す「ビジネスコース科目」と、調査・分析力を高めるための「社会・文化コース科目」、実践的英語力を養成する「国際英語コース科目」のいずれかを選択履修します。
　また、中学校および高等学校教諭一種免許状（英語）を取得するための「教職特設科目」も設置しており、教員免許状を取得する場合は「応用科目」において「国際英語コース科目」を選択し、「学部共通科目」および「基幹科目」のうち免許に必要な科目とともに「教職特設科目」を履修します。

教育内容
（1）学部共通科目
①全学共通科目、人間学関連科目
◦豊かな人間性と倫理観を身につけ、幅広い視野から物事をとらえ、的確な判断を下すことができる力を養います。
②環境・健康科目、外国語科目、情報科目、修学基礎・キャリア形成科目
◦大学生としての基礎的能力ならびに専門的・実際的な知識を修得し、探究的な意欲と協働的な態度を身につけます。

（2）専門科目
①基幹科目
「コミュニケーション学基礎」
◦コミュニケーションに関する知識、言語やその他のコミュニケーション・ツールの活用スキルを修得し、国際社会や地域社会を広い視野からとらえる力を身につけます。
「コミュニケーション学専門」
◦国際化・情報化社会において文化の相互交流に資する豊かな表現力を育成し、課題解決のための構想力と判断力を身につけるための専門性を身につけます。
②応用科目
「ビジネスコース科目」
◦企画力・マネジメント力の向上を通して、組織・地域・社会の課題の解決に向けて主体的に取り組む力を育成します。
「社会・文化コース科目」
◦現代社会・文化における諸問題に主体的に取り組み、社会調査や情報処理の技術を活用し

て共生社会・地方文化の構築に資する力を育成します。
「国際英語コース科目」
◦異文化を理解し、国際社会や地域社会を広い視野からとらえる技能と言語スキルを身につけ、国際化社会において文化の相互交流に資する力を育成します。
「特別演習および卒業研究」
◦地域の文化創造・発展に向けて課題解決に主体的に取り組む力を身につけ、地域社会や産業界のリーダーとなる意欲を高めます。

教育方法
･関連する科目において、講義・実習・演習を段階的に配置し、効果的な教育を行います。
･身につけたい能力・資格の目標設定を行い、課外での自己学習の推進を図っています。
･PBL 型授業などを通じ、主体的な学びの力を高めるためにアクティブ・ラーニングを取り入れます。

３．健康栄養学科
豊かな人間性と倫理観を身につけ、幅広い視野から物事をとらえる能力及び現代の人間生活の諸課題の解決や支援に当たりうる幅広い教養を身につけるための「学部共通科目」と管理栄養士国家試験受験資格および栄養士、栄養教諭、食品衛生管理者、食品衛生監視員の免許・資格を取得するための「専門科目」によって構成しています。「専門科目」は①基礎分野、②専門基礎分野、③専門分野、④特別演習・卒業研究、を積み上げ、⑤関連科目、⑥教職科目（栄養教諭）を体系的に配し学習効率を高めるカリキュラム構造になっています。

教育内容
（1）学部共通科目
①全学共通科目、人間学関連科目
◦豊かな人間性と倫理観を身につけ、幅広い視野から物事をとらえ、的確な判断を下すことができる力を養います。
②環境・健康科目、外国語科目、情報科目、修学基礎・キャリア形成科目
◦大学生としての基礎的能力並びに現代の人間生活の諸課題の解決や支援に当たりうる豊かな教養と確かな知識、技能を学びます。

（2）専門科目
知識・理解・技能
･チーム医療に求められる、傷病者に対する適切な栄養管理を学びます。
･地域、保健、福祉、産業の場において求められる、栄養状態の把握、個別栄養評価プログラムの提案、行動変容の支援について学びます。
･学校における「栄養・食教育」および地域社会の特色を活かした健康づくりを学びます。
･基礎研究および商品開発に求められる、 栄養学、食品学の専門知識を学びます。

思考力・判断力・表現力
･管理栄養士に求められる、他職種および対象者とのコミュニケーション能力、論理的思考力、判断力ならびに表現力を身につけます。

関心・意欲・態度
･あらゆる分野において人々の健康の保持・増進に関わる課題を見出し、その解決・改善に向けて他者と協働して主体的に取り組み、社会に貢献する意欲と態度を身

につけます。

教育方法
・「基礎生物学」「基礎化学」などの基礎科目を開講し、専門科目において知識・理解・技能を修得するための基礎学力の向上を図っています。
・各科目の復習として夏期および春期の長期休暇には、直前に履修した科目の課題を課し、休暇明けに確認試験を実施しています。履修直後の復習により、知識・理解・技能の定着を図っています。
・あらゆる分野で実験・実習科目を開講し、思考力・判断力・表現力の修得を図っています。
・臨地実習により、管理栄養士の実務に対する関心・意欲・態度ならびに実践能力の修得を図っています。
・外部試験として栄養士実力認定試験を実施し、学修到達度を測っています。
・成績の個別モニタリングを行い、個別指導を行っています。

４．子ども教育学科
豊かな人間性と倫理観を身につけ、幅広い視野から物事をとらえる能力及び現代の人間生活の諸課題の解決や支援に当たりうる幅広い教養を身につけるための「学部共通科目」と小学校教諭、幼稚園教諭、保育士、児童厚生一級指導員の免許・資格を取得するための「専門科目」によって構成しています。

教育内容
（1）学部共通科目
①全学共通科目、人間学関連科目
◦豊かな人間性と倫理観を身につけ、幅広い視野から物事をとらえ、的確な判断を下すことができる力を養います。
②環境・健康科目、外国語科目、情報科目、修学基礎・キャリア形成科目
◦大学生としての基礎的能力並びに現代の人間生活の諸課題の解決や支援に当たりうる豊かな教養と確かな知識、技能を学びます。

（2）専門科目
知識・理解・技能
・教育・保育の基礎理論を学び、その本質や目的について学びます。
・教育・保育の対象となる乳児、幼児、児童等の発達について学びます。
・幼稚園や小学校等で展開する教育・保育の内容を理解し、それらの指導方法を習得します。
・教育・保育の内容の実践に求められる音楽・身体・言語・図工等の表現技術を身につけます。

思考力・判断力・表現力
・保護者及び地域の子育て支援の意義を学び、支援に必要な判断力と支援の方法を身につけます。
・学外実習を通して教育・保育の実践能力とともに実践後の振り返る態度を身につけます。

関心・意欲・態度
・探究的並びに協働的な態度をもって、人間生活の諸課題の解決に向けて主体的に取り組み、子どもの健全な育成と福祉の向上に寄与できる能力を涵養します。

教育方法
･教室外学修の課題を通して授業科目の知識・理解・技能の向上を図っています。
･学生の課題発表等、学生の主体的な活動を授業に取り入れ、思考力・判断力・表現力の向上を図っています。
･模擬授業や模擬保育を 授業にふんだんに取り入れたり、地域の教育・保育の現場を見学する機会を設けたりして、思考力・判断力・表現力の修得を図っています。
･学外実習を 1 年次から行い、4 年間で 19 週間という多くの実習を通して教育・保育の実務に対する関心・意欲・態度の修得を図っています。
･自己認識シートを活用して、学生の自己評価を行うとともに、教員との面談を通して振り返りを行っています。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：
心理学科
https://www.jindai.ac.jp/department/human/psychology/policy.html
コミュニケーション学科
https://www.jindai.ac.jp/department/human/communication/policy.html
健康栄養学科
https://www.jindai.ac.jp/department/human-life/dietetics/policy.html
子ども教育学科
https://www.jindai.ac.jp/department/human-life/education/policy.html

（概要）
１．心理学科
仁愛大学の建学の精神である「仁愛兼済」の仏教精神を基本において、人間の心理や行動特性に関して多角的な教育研究を行い、幅広い心理学の専門知識と相談・援助の技術を有する有為な人材を育成したいと考えています。このような考えに立ち、心理学科は次のような人を求めます。

知識・理解・技能
･他者や自己の理解とコミュニケーション、および、思考の基本となる言語としての「国語」や「英語」における基礎的能力を身につけている。
･論理性や分析力を養う「数学」をはじめ「地歴・公民」「理科」など、幅広い科目における基礎的知識を修得している。

思考力・判断力・表現力
･高校時代にさまざまな学校行事や部活動、ボランティアなどに参加し、人と積極的に関わることで実際的な思考力・判断力・表現力を身につけていることが望まれる。

関心・意欲・態度
･状況や考え方、立場や年齢の異なるさまざまな人々を理解し、身近な個人および社会の問題に関心を持ち、解決しようとする意欲がある。
･良好な人間関係の形成と快適な生活を望み、主体性をもって多様な人々と協働して物事に対処し、現代社会に貢献して活躍できる力を獲得しようとする態度を有している。

２．コミュニケーション学科
仁愛大学の建学の精神である「仁愛兼済」の仏教精神を基本において、国際化・情報化社会において、豊かな表現力を有し文化の相互交流に資することができ、柔軟な発想と実践的な企画力により、地域社会や産業界のリーダーとなる人材を育成したいと考えています。このような考えに立ち、コミュニケーション学科は次のような人を求めます。

知識・理解・技能
･他者や自己の理解とコミュニケーション、および、思考の基本となる言語としての「国語」や「英語」における基礎的能力を身につけている。
･論理性や分析力を養う「数学」をはじめ「地歴・公民」「理科」など、幅広い科目における基礎的知識を修得している。

思考力・判断力・表現力
･高校時代にさまざまな学校行事や部活動、ボランティアなどに参加し、人と積極的に関わることで実際的な思考力・判断力・表現力を身につけていることが望まれる。

関心・意欲・態度
･文化や言語、立場や年齢の異なるさまざまな人々を理解し、社会や個人の問題を解決しようとする意欲がある。
･国際化・情報化社会で活躍できる企画・マネジメント力、調査・分析力、実践的英語力を身につけようとする意欲がある。
･現代社会における良好な人間関係を形成する意欲があり、人や社会に関心があり、主体性をもって多様な人々と協働して物事に対処しようとする態度を有している。

３．健康栄養学科
仁愛大学の建学の精神である「仁愛兼済」の仏教精神を基本において、健康と栄養に関する高度な専門知識と技術を有し、医療、地域、保健、福祉、教育、産業のあらゆる分野において人々の健康の保持・増進に貢献することのできる管理栄養士を養成したいと考えています。このような考えに立ち、健康栄養学科は次のような人を求めます。

知識・理解・技能
･管理栄養士を目指すのにふさわしい、高等学校の教育課程における基礎的で幅広い学力を有し、向上心と探究心を有する。

思考力・判断力・表現力
･食と健康の関係を大切に考え、健康の保持増進に興味・関心を持ち、それらの諸課題について様々な知識や情報をもとにして論理的に考え、口頭または文章で表現できる。

関心・意欲・態度
･4 年間の学びを通して管理栄養士免許取得を目標に知識・技能を修得する強い熱意と意欲を持っている。
･協調性を有し、社会活動への応用能力を身につけたいと願っている。

４．子ども教育学科
仁愛大学の建学の精神である「仁愛兼済」の仏教精神を基本において、豊かな感性と愛情をもって、子どもの生きる力と学ぶ意欲を育てる教育者・保育者を養成することを目標に掲げ、人間生活の諸課題の解決に向けて主体的に取り組み、子どもの健全な育成と福祉の向上に寄与できる教育者・保育者を養成したいと考えています。
このような考えに立ち、子ども教育学科は次のような人を求めます。

知識・理解・技能
･保育者・教育者を目指すのにふさわしい、高等学校の教育課程における基礎的で幅広い学力を有し、向上心と探究心を有する。

思考力・判断力・表現力
・教育や福祉等、人間生活の事象に関心を持ち、それらの諸課題について様々な知識や情報をもとにして論理的に考え、口頭または文章で表現できる。

関心・意欲・態度
・4年間の学びを通して保育士、幼稚園教諭、小学校教諭、児童厚生員となるために求められる知識・技能を修得する強い熱意と意欲を持っている。
・人との関わりを大切にし、豊かな人間性と周囲との協調性を身につけながら、何事にも積極的に取り組もうとする。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：https://www.jindai.ac.jp/about/org.html

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）

学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手その他	計
－	3 人	－					人
人間学部	－	11 人	9 人	4 人	0 人	3 人	27 人
人間生活学部	－	17 人	5 人	5 人	0 人	4 人	31 人

b. 教員数（兼務者）

学長・副学長	学長・副学長以外の教員	計
0 人	72 人	72 人

各教員の有する学位及び業績（教員データベース等）	公表方法：https://www.jindai.ac.jp/database/staff/

c. ＦＤ（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学定員	編入学者数
人間学部	170 人	135 人	79.4%	684 人	569 人	83.2%	0 人	2 人
人間生活学部	145 人	106 人	73.1%	582 人	427 人	73.4%	0 人	1 人
合計	315 人	241 人	76.5%	1,266 人	996 人	78.7%	0 人	3 人

（備考）

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数（自営業を含む。）	その他
人間学部	140 人 (100%)	10 人 (7.1%)	126 人 (90.0%)	4 人 (2.9%)
人間生活学部	103 人 (100%)	2 人 (1.9%)	101 人 (98.1%)	0 人 (0.0%)
合計	243 人 (100%)	12 人 (4.9%)	227 人 (93.4%)	4 人 (1.6%)

（主な進学先・就職先）（任意記載事項）

（備考）

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (　　%)	人 (　　%)	人 (　　%)	人 (　　%)
	人 (100%)	人 (　　%)	人 (　　%)	人 (　　%)	人 (　　%)
合計	人 (100%)	人 (　　%)	人 (　　%)	人 (　　%)	人 (　　%)
（備考）					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

（概要）

・授業計画（シラバス）の作成課程

教育課程委員会にて「シラバス(授業計画)執筆ガイドライン」を定め、学部ごとに統一されたシラバスを作成している。シラバスへの記載は、授業の方法(講義、演習、実習等)、授業の内容、授業計画、授業の到達目標、成績の評価方法・基準欄の他、教育目標、アクティブラーニングの実施、事前・事後学修等も含まれている。また、本委員会によるシラバスチェックを実施し、適正性に努めている。なお、シラバスは、大学ホームページ“教育情報の公表”を通じて学内外に公表している。

・授業計画の作成・公表時期

毎年 12 月中旬までに次年度の授業担当者が決定することから、シラバスの作成は 12 月下旬から 1 月中旬頃までとなっている。公表時期については、教育課程委員会による“シラバスチェック(2 月～3 月中旬)”を経て 4 月より本学ＨＰの“教育情報の公表”を通じて全て公表している。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

（概要）

各授業科目のシラバスに示されている“授業の到達目標”に対する学生の到達度を見るため、講義、演習、実験、実習、実技等の授業形態に応じた評価方法（①定期試験：筆記、実技、論文、レポート等。②平常成績：小テスト、課題、授業への参加態度等。）を実施している。なお、成績の評価は以下の基準により表される。

成績評価	素点基準	単位認定
S	100～90点	合格
A	89～80点	
B	79～70点	
C	69～60点	
E	59～0点	不合格
F	（出席数不足）	

学則に基づいて所定の単位を修得し、“学位授与の方針(ディプロマポリシー)”にて定められた能力を身につけた学生に卒業を認め学位を授与している。なお、卒業判定は各学部の教務委員会にて卒業要件の確認(各種資格要件の確認を含む)を行い、各学部の教授会を経て、学長が卒業及び学位授与を決定している。

学部名	学科名	卒業又は修了に必要となる単位数	ＧＰＡ制度の採用（任意記載事項）	履修単位の登録上限（任意記載事項）
人間学部	心理学科	124 単位	有・無	単位
	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科	124 単位	有・無	単位
人間生活学部	健康栄養学科	128 単位	有・無	単位
	子ども教育学科	128 単位	有・無	単位
ＧＰＡの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報（任意記載事項）		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：https://www.jindai.ac.jp/life/map.html

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名		授業料（年間）	入学金	その他	備考（任意記載事項）
人間	心理	1年	700,000円	250,000円	160,000円	その他：教育充実費 休学時：在籍料60,000円/学期
		2-4年	700,000円	0円	410,000円	その他：教育充実費 休学時：在籍料60,000円/学期
	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ	1年	700,000円	250,000円	160,000円	その他：教育充実費 休学時：在籍料60,000円/学期
		2-4年	700,000円	0円	410,000円	その他：教育充実費 休学時：在籍料60,000円/学期
人間生活	健康栄養	1年	800,000円	250,000円	160,000円	その他：教育充実費 休学時：在籍料60,000円/学期
		2-4年	800,000円	0円	410,000円	その他：教育充実費 休学時：在籍料60,000円/学期
	子ども教育	1年	700,000円	250,000円	180,000円	その他：教育充実費、実験実習費 休学時：在籍料60,000円/学期
		2-4年	700,000円	0円	430,000円	その他：教育充実費、実験実習費 休学時：在籍料60,000円/学期

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a.学生の修学に係る支援に関する取組

（概要）
学生支援センター学務課では、授業の履修登録、課外活動など大学生活全般にかかわる支援や諸手続きを行っている。自家用車通学者の大学駐車場利用手続きや在学証明、成績証明等各種証明書発行業務のほか、本学独自の奨学金や日本学生支援機構奨学金等学外奨学金の紹介、説明、手続きも行っている。また主に心身に障害などがあり、継続的に日常生活に制限を受ける状態にある学生の求めに応じ、修学特別支援委員会を中心として授業・定期試験など学生生活における支援を行っている。

b.進路選択に係る支援に関する取組

（概要）
学生一人ひとりの個性を活かし、それぞれが社会で活躍できるよう、1年次の4月からキャリア支援プログラムをスタート。職業観や勤労観を育てるため、社会人としてのマナーや知識を要請するとともに、学生の適性に応じたきめ細やかな指導を行っている。また、就職活動時期にあわせた学内の就職指導と並行し、さまざまな進路に対応した講座やセミナーなど、外部講師などを交え多数実施している。

c.学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

（概要）
保健管理室では、医師・保健師が学生の健康管理、健康相談・指導に応じている。毎年全学生の健康診断を実施している。また、学生相談室では、専門相談員（非常勤カウンセラー）による相談やカウンセリングを行っている。このほか、相談委員の教員を配置して、人間関係、自分の性格や進路等についての相談に対し、きめ細やかなサポートを行っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：https://www.jindai.ac.jp/about/disclosure.html

備考　この用紙の大きさは、日本産業規格Ａ４とする。

（別紙）

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	F118310105637
学校名（○○大学 等）	仁愛大学
設置者名（学校法人○○学園 等）	学校法人福井仁愛学園

１．前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等（内数） ※家計急変による者を除く。		124人（ － ）人	124人（ － ）人	125人（ － ）人
内訳	第Ⅰ区分	53人	54人	
	（うち多子世帯）			
	第Ⅱ区分	33人	29人	
	（うち多子世帯）			
	第Ⅲ区分	20人	15人	
	（うち多子世帯）			
	第Ⅳ区分（理工農）	0人	0人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	13人	22人	
	区分外（多子世帯）	－	－	
家計急変による 支援対象者（年間）				0人（　　）人
合計（年間）				125人（ － ）人

（備考）

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第８号）第４条第２項第１号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第４９号）第２条第１項第２号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

２．前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

（１）偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人

（２）適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当）	－	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	－	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	0人	人	人
計	－	人	人
（備考）			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（２）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

（３）退学又は停学（期間の定めのないもの又は３月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
３月以上の停学	0人
年間計	0人
（備考）	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

３．前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

（１）停学（３月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

３月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
（備考）	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

（２）適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
ＧＰＡ等が下位４分の１	－	人	人

４．適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が警告の基準に該当）	0人	人	人
ＧＰＡ等が下位４分の１	20人	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	－	人	人
計	21人	人	人
（備考）			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。